

※令和8年より新様式となっていますが、自社のシステムを利用する等の場合は、当面の間旧様式にて御申告いただくこともできます。

〔種類別明細書の記入例〕

令和8年度 種類別明細書(増減資産用)

1 所有者名		2 1枚の地		3 異動区分		4 物件番号		5 資産の名称等		6 数量		7 取得年月		8 元日取得		9 取得価額		10 耐用年数		11 申告年度		12 増減事由		13 摘要	
行番号	異動区分	資産の種類	物件番号	資産の名称等	数量	年号	年	月	元日取得	取得価額	耐用年数	申告年度	増減事由	摘要											
01	1	1	0000001	内装工事	1	5	7	3		800000	13	1													
02	1	6	0000002	エアコン	1	5	7	6		580000	6	1													
03	2	6	0000003	看板	4	4	19	3		800000	5	4	5枚のうち1枚(200,000円)減失 1,000,000円⇒800,000円												
04	2	6	0000004	エアコン	1	4	17	5		0	6	4													
05																									
06																									
(省略)																									
16																									
17																									
18																									
19																									
20																									
小 計																									

注意1 異動区分の欄は、1.増加、2.減少、3.訂正 のいずれかの数字をご記載ください。
 注意2 資産の種類は、1.構築物 2.機械及び装置 3.船舶 4.航空機 5.車両及び運搬具 6.工具、器具及び備品 のいずれかの数字をご記載ください。
 注意3 取得年月の年号欄は、3.昭和 4.平成 5.令和 のいずれかの数字をご記載ください。
 注意4 元日取得の欄は、元日(0月1日)に取得した場合には1をご記載ください。
 注意5 異動区分が2.減少の場合、取得価額の欄に減少後の取得価額(例:全部減少の場合は0が入ります)を、摘要の欄に減少前の取得価額をご記載ください。
 注意6 増減事由の欄は、1.新品取得、2.中古品取得、3.売却、4.減失、5.移動、6.その他 のいずれかの数字をご記載ください。

第二十六号様式別表二(提出用)(用紙日本産業規格A4・赤色)(第十四条関係)

- 氏名または名称を記入してください。
- この種類別明細書について、ページ数をつけてください。
(例:総枚数1枚のうち1枚目)
- 異動区分の欄には「1.増加、2.減少、3.訂正」のいずれかの数字をご記入ください。
資産の種類は「1.構築物、2.機械及び装置、5.車両及び運搬具、6.工具、機器及び備品」のいずれかの数字を記入してください。
- 別紙の種類別明細書に記載の物件番号を書き写してください。新たに追加される資産については空欄にしてください。
- 資産の名称等を記入してください。
(漢字・ひらがな可)
- 資産の数量(個数または台数)を記入してください。
- 資産を実際に取得または製作した年月を記入してください。
年号には「3.昭和、4.平成、5.令和」の数字を記入してください。

- 元日(1月1日)に取得した場合には1を記入してください。
- 資産を取得するために支出した金額、または支出すべき金額(附帯費を含みます。)を記入してください。圧縮記帳は、償却資産の評価上認められておりませんので、圧縮前の取得額を記入してください。
- 「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」の別表第1、別表第2、別表第5及び別表第6に掲げる耐用年数を記入してください。中古資産について、見積耐用年数を適用している場合はその耐用年数を、また、国税局長の承認を経て耐用年数を適用している場合はその耐用年数を記入してください。
- 申告年度につきましては、空欄でかまいません。
- 「1.新品取得、2.中古品取得、3.売却、4.減失、5.移動、6.その他」のいずれかの数字を記入してください。
- 「異動区分」が2.減少の場合、「取得価額」の欄に減少後の「取得価額」(例:全部減少の場合は「0」が入ります)を、「摘要」の欄に減少前の「取得価額」をご記載ください。
その他、該当資産の価額の決定にあたって必要な事項を記入してください。